

## 福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 2 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

### ◇麦類◇

生育は 11 月下旬播きが 6 葉期で平年より 7 日程度早まっています。草丈は高く、茎数は平年並～やや多いです。茎立ち期は平年より早く、2 月 4～6 半旬の予想です。12 月播きは 4 葉期で平年より 2～4 日程度早まっています。現在は麦踏み、土入れ、追肥作業の時期で、雑草の発生量がやや多い状況です。今後は排水対策、雑草対策を徹底しましょう。穂肥の施用時期は食料用大麦と裸麦で 2 月下旬、小麦では 2 月下旬～3 月上旬となっています。

### ◇冬春ナス◇

1 月からの好天により、芽や果実の伸びも順調で、出荷量はやや増加しています。曇天後の急な晴れにより一部日焼け果が発生しています。すすかび病の発生とアザミウマ類、コナジラミ類が増え始めています。3 月以降は温度が上昇し、生育、収量が増加するため 2 月までに摘葉や芽の整理を行いましょ。換気、湿度管理、発病葉の持ち出し等の病害対策も行いましょ。

### ◇施設キュウリ◇

促成作型では、1 月からの好天により草勢は良く、出荷量も順調です。べと病、菌核病が発生し、アザミウマ類も発生し始めています。天敵導入は 3 月下旬からの予定です。半促成作型は 2 月上旬を中心に、概ね順調に定植が進んでいます。今後はハウス内の温度確保、こまめなかん水等により草勢維持・回復に努め、3 月から天敵導入予定のほ場は放飼前の準備を行いましょ。温湿度管理によりべと病、菌核病等病害対策を行いましょ。

### ◇ビワ◇

露地の生育は平年よりやや早く、晩生品種「田中」の開花もほぼ終了しました。収量は平年並～やや多い見込みで、ハウス栽培の「長崎早生」は袋かけ中で、出荷は 3 月中旬以降となる見込みです。3 月までは寒害のおそれがあるため、袋がけ等の対策を行いましょ。

#### ◇ナシ◇

ハウス栽培では、11月以降高温傾向で推移し、休眠打破に必要な低温遭遇が遅れた影響により平年より1週間前後遅れて1月末から2月1半旬より加温を開始しています。発芽期は2月4半旬の見込みです。露地では剪定が終盤を迎え、花芽の着生は概ね良好です。高温傾向のため耐寒性の獲得不良により、急な低温による芽枯れの発生が散見されています。ハウス栽培では発芽期まで10℃前後の温度管理とし、発芽後は7℃前後に下げ花器の充実を図りましょう。開花期には15℃を確保し、受粉に好適な温度を確保し、晴天時に30℃を超えないよう注意しましょう。

#### ◇トルコギキョウ◇

1月の出荷量は12月から1月上旬の高温により開花が前進したため、前年に比べて増加しています。春出し栽培（3～4月出し）の生育は概ね順調です。2次から3次小花の発蕾～開花時期で、昨年より早い3月上旬頃より出荷開始の見込みです。一部灰色かび病が発生しているため、換気や湿度管理等の対策を徹底しましょう。品質向上、出荷期の省力化のため、ほ場での芽摘みを徹底しましょう。開花期は花の小輪化を防ぐため、夜温を12℃以上で管理しましょう。

#### ◇肉用牛◇

1月の肉牛枝肉単価は、概ね前年度並で、過去5年平均比119～128%の高い水準で推移しています。子牛の防寒対策と農場の衛生管理を引き続き徹底しましょう。